

# 関西大学独逸文学会会則

(平成4年4月1日現在)

- 第1条 本学会は関西大学独逸文学会と称する
- 第2条 本学会は独逸文学・独逸語学の研究および普及をはかることを目的とする
- 第3条 本学会は前条の目的を達成するために次の事業を行なう
1. 毎年1回総会を開く
  2. 毎年2回研究発表会を開く
  3. 毎年機関誌を発行する
  4. その他研究会、講演会などを行う
- 第4条 本学会は次の会員で組織する
1. 本学ドイツ文学科の教授・助教授・専任講師及び助手
  2. 本学の教授・助教授・講師および助手の有志者
  3. 本学ドイツ文学科学生・院生
  4. 本学学生・院生ならびに卒業生の有志者
  5. その他本学会の趣旨に賛同する者
- 第5条 本学会は会長1名・委員および幹事それぞれ若干名を置く
1. 委員は本学ドイツ文学科の教授・助教授および専任講師とする
  2. 会長は委員会が会員中から推薦する任期は2年とし重任を妨げない
  3. 幹事は本学ドイツ文学科の助手・および互選された学生・院生・卒業生の若干名に委員が委嘱する  
任期は1年とし留任を妨げない
- 第6条 機関誌の編集委員は本学会の委員の互選による若干名とする
- 第7条 会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする
- 第8条 会費は年額3,000円とする
- 第9条 本学会の事務所は本学文学部ドイツ文学科研究室に置く
- 第10条 会則の変更は委員会を経て総会の審議によって行なう
- 〔備考〕会費年額3,000円（第8条）は昭和60年度よりとし、59年度以前入学の学部学生の前納会費は据置とする

### 執筆者紹介（掲載順）

藤 沢 ゆうり      平成4年3月関西大学大学院博士課程後期修了，関西大学非常勤講師

小 高 康 正      長野大学助教授

藪 前 由 紀      関西大学大学院博士課程後期在学中

奥 田 誠 司      関西大学大学院博士課程後期在学中

十 河 健 二      関西大学非常勤講師

Johannes Schwittalla      マンハイム・ドイツ語研究所教授

佐 藤 裕 子      デュッセルドルフ大学外国人教師

## 編 集 後 記

「独逸文学」第36号をお届けします。

新進気鋭の院生及び卒業生による論文のテーマは、ゲーテ、グリム、トラークル、カフカ、ブラーク学派とヴァリエティに富んでいます。また在独7年に及ぶ佐藤裕子さんの、湾岸戦争当時のドイツの平和運動に関する異色のレポートは、前号に掲載されたドイツ語圏での日本語教育についての報告と共に、アクチュアルなドイツ事情を伝えています。

マンハイム・ドイツ語研究所（IDS）教授ヨハネス・シュヴィットラ氏の社会言語学的視点からの対話分析の論稿は、1990年9月の第10回夏季言語学ゼミナール（奈良）における講演に基づくものです。大学の外国語教育が岐路に立たされている折、氏のコミュニケーション理論の先端的な研究は、我々に貴重な示唆を与えてくれるものと思われます。同氏とIDSのご好意により本号に掲載することができました。

なお新編集委員会の構成メンバーは、杉谷眞佐子、福岡四郎、渡辺有而、デトレフ・シャウヴェッカーです。

独 逸 文 学 36	
平成4年6月30日 発行	
編 集 兼 発 行 者	関 西 大 学 独 逸 文 学 会 吹 田 市 山 手 町 3 - 3 - 35 関 大 独 文 研 究 室 内 電 話 ・ 大 阪 (06) 388-1 1 2 1 内 線 5 0 1 5
印 刷 所	内 外 印 刷 株 式 会 社

(非売品)

# **DIE DEUTSCHE LITERATUR**

**36**

**1 9 9 2**

**Gesellschaft für Germanistik**

**Kansai Universität**

**Osaka Japan**